

平成 29 年度シラバス (マリンスポーツ)

学番 78 新潟県立海洋高等学校

教科 (科目)	マリンスポーツ	単位数	2 単位	学年 (コース)	1 年
使用教科書	なし				
副教材等	特殊小型船舶操縦士 (ヤマハ発動機)				

1 学習目標

マリンスポーツに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、海洋などでの諸活動を円滑かつ安全に行うための能力と態度を育てる。

2 指導の重点

マリンスポーツで使用する機器の特性や使用方法、安全確保方法、活動の場となる自然環境等を中心に、海洋や河川におけるマリンスポーツに関する基礎的な知識と技術の習得を目指します。また海洋や河川の利用に関する法令やマナー等の知識を習得し、漁業者や自然環境との関わり方を理解します。

3 学習計画

月	単元	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4 5 6 7	マリンスポーツ	○マリンスポーツ学習プリント	○舟艇の漕艇に関する基礎的な知識を習得する。 ○マリンスポーツに必要な基本的なロープワークを習得する。 ○船の文化に関する基本的な内容を理解する。 ○シットオンタイプのカヌーの特性を理解し、その操作方法を習得する。 ○スノーケリングの基本的な動きを理解し、その技術を習得する。 ○SUPボードの基本的な動きを理解し、その技術を習得する。 ○海難事故への対処法、救助法、ライフジャケットの特性と利用法、トラブル未然に防ぐ対処法等について理解する。	29	授業の取組 実技テスト 実習レポート 定期考査
	期末考査 夏期実習 (別紙)	○マリンスポーツ集中実習プリント	○マリンスポーツの楽しさや厳しさを体感する中で、実践力を身に付け、協調性や忍耐力の大切さを自覚すると共に、感動を味わう。	(12)	
8 9 10 11 12	マリンスポーツ 釣り理論 期末考査	○マリンスポーツ学習プリント	○着衣水泳、フローティングデバイスを活用した救助法について習得する。(外部講師) ○1学期に体験した水上バイクのさまざまな活用方法について理解する。(外部講師) ○釣りの基本的知識を理解させる。 ○釣りに関連する法規を理解させる。 ○釣りの事故防止と対策について理解させる。	15	授業の取組 実習レポート 実技テスト 定期考査
1 2 3	特殊小型船舶操縦士取得をめざして 学年末考査 普通救命講習	○特殊小型船舶操縦士テキスト ○普通救命講習テキスト	○特殊小型船舶の操縦者の心得及び遵守事項について理解させる。 ○海上事故防止上必要な法規を理解する。 ○気象や海象、海図等の知識を理解する。 ○事故が発生時の措置を理解させ、心肺蘇生法やAEDの使用等の救急救命に関する基本的な知識と技術を習得する。	20	授業の取組 定期考査 受講レポート

計 64 時間 (55 分授業)

4 課題・提出物

- 実習終了後は必ず実習レポートを提出します。
- 特殊小型船舶操縦士の学習では、家庭学習が欠かせません。課題を課すことがあります。

5 評価の規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
マリンスポーツに対して関心を持ち、意欲的に知識・技術を習得しようとしている。 習得した知識・技術を利用し、マリンスポーツを円滑かつ安全に実施しようとする態度を身に付けようとしている。	マリンスポーツに関する各種技術を状況に応じて判断して使用することができる。 マリンスポーツの種類や対象水域の特性から適切な計画をし、同行者と円滑かつ安全に実施することに必要な発言や記述ができる。	マリンスポーツを円滑かつ安全に実施するために必要な各種技術の基礎的な技能を身に付けようとしている。	マリンスポーツを円滑かつ安全に実施するために必要な、各種技術の原理や用途を理解している。 マリンスポーツを円滑かつ安全に実施するために必要な、自然環境やその利用に関する基礎的な知識を理解している。
<p>以上の観点を踏まえ 授業・実習への取組 レポート等の提出物 実技テスト、定期考査 などから総合的に評価します。</p>			

6 担当者からの一言

初めてマリンスポーツを体験する人が多いと思います。夏までの天候の良い日は、海やプールでの活動になります。授業前には、服装や持ち物等の準備をしっかり確認してください。この授業の最大の目的は「安全」に活動できることです。緊張感を持って授業に参加してほしいと思います。活動できる時期は限られていますが、海での活動の楽しさを一緒に実感しましょう。(担当：矢口 沙保里、金子 義昂、岩谷 和彦、増田 真之介、渡辺 宏幸、高鳥 淳一、伊藤 東、斉藤 ゆかり 橋本 拓実)